

令和6年度(2024)新潟経営大学

入学者選抜 学校推薦型選抜
指定校・系列校・公募 問題冊子

小論文

(経営情報学部 経営情報学科/スポーツマネジメント学科)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、及び答案用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
3. 受験番号欄に受験番号を数字で記入しなさい。
4. 氏名欄に氏名を記入しなさい。
5. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

問題 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

地球温暖化の危機は、取り返しがつかなくなる瀬戸際まで来ている。「この10年間の対策が数千年先まで影響する」。国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、強い言葉でこう警告した。二酸化炭素排出の大幅削減を、加速させなければならない。

温暖化の被害を抑えるため、産業革命前と比べた気温上昇を1.5度に抑える——。これが、国際社会で合意されてきた目標だ。だが、IPCCが今週まとめた第6次統合報告書によると、上昇はすでに1.1度に達した。

温室効果ガスを今のペースで出し続ければ、2030年までに、1.5度目標を達成できる限度を超えてしまう。「持続可能な未来のための窓は急速に閉ざされている」状況だ。25年までに排出量を減少に転じさせ、35年には19年比で60%減らす必要があるという。

温暖化が進めば、極端な気象が増え、災害が激しくなる懸念も強い。18年の西日本豪雨や昨年のも、温暖化が原因」とまでは断定できないが、温暖化がない場合に比べれば発生確率が高くなっていたことが計算で示されている。報告書は、1.5度の上昇により、「10年に1度」の熱波が起きる確率は4.1倍、豪雨の確率も1.5倍になると指摘した。

防潮堤や治水対策で減らせる被害もあるが、それにも限界がある。氷河や氷床の融解が進んでしまうと、将来気温が下がっても元には戻りにくい。温室ガスの排出を早く抑えることが、有効な対策として不可欠だ。

報告書には、数千人の科学者や政府関係者がかかわり、多数の学術論文をもとに科学的根拠が高い知見をまとめている。21年までのデータで作成されているため、ロシアのウクライナ侵略に伴う化石燃料回帰の影響を反映すれば、状況はさらに厳しさを増しているはずだ。

国連のグテーレス事務総長は「気候の時限爆弾の針は進んでいる」と述べ、先進国に対し、実質排出ゼロの実現を40年に前倒しするよう求めた。

各国では太陽光や風力発電が急速に広がり、コストも大きく下がりつつある。だが、日本の動きは鈍い。化石燃料にこだわり、技術開発に遅れては、環境と経済の両面で、世界から取り残されるだろう。

排出削減の強化は、年末の国連気候変動会議（COP28）に加え、今年には日本が議長国の主要7カ国（G7）会議でも議論される。対策を足踏みさせては議長国としての信頼は得られない。新しい数値目標を率先して示し、国際社会に協調を促していくべきだ。

（出典）朝日新聞 2023/3/25 社説

承認番号（24-0895）※朝日新聞社に無断で転載することを禁止する

問1 本文を読み、温室効果ガスが増え続けると、どんな影響があるのかを200字以内で要約しなさい。

問2 地球温暖化の進行を食い止めるために私たちは何をすべきだとあなたは、考えますか。400字以内で述べなさい。